

## 別表 1 2 諸外国の事例（非点源）

米 国：CAAとFIFRAの範疇で推計された非点源データが、1996年分の点源データの報告分と併せて1996年版TRIの報告書に掲載。  
 カナダ：N P R I の枠組みで実施せず。（温室効果ガス、大気汚染物質については、別のインベントリーのデータをNPRIの報告書に掲載。）  
 英 国：移動体について推計しているとの情報があるが、詳細については調査中。

事 項	オ ラ ン ダ	オーストラリア（パイロット事業）
カテゴリー	中小事業所（対象規模未満、サービス部門（クリーニング店、パン屋、ガソリンスタンド等） 交通及び輸送（道路交通（排ガス、道路の融雪、固形廃棄物）、海運（排ガス 水質汚濁）、鉄道（燃料燃焼、電線腐食）、航空（大気への排出、騒音） 農業（農薬使用、堆肥の過剰生産（オランダ固有）、温室暖房による燃焼排出、 トラクター及び刈り取り機の使用、廃棄物の焼却） 一般家庭及び製品使用（部屋暖房・調理燃焼排出、溶剤等からの揮発性有 機化合物の排出、掃除・洗濯による水への排出、人口密度関連の排 出、固形廃棄物からの排出） 自然発生源（火山、沼地、土壌プロセス、植物） 他の発生源（副次的発生源：大気汚染物質の水中・土壌中への堆積、土壌汚 染物質の地下水・地表水への浸透、大気中に放出された粒子の落下 暴風雨用下水道・雨水・汚水システムからの排出、廃棄物最終処分場か ら土壌への漏出）	地域関連排出源（塗料（家庭・市販用塗料中の溶媒）、エアゾール及び溶剤（揮発 性ガス状噴出剤・溶剤を含む家庭・市販用）、ドライクリーニング（揮発性クリ ーニング溶剤）、ガス状及び液体燃料の燃焼、固体燃料の燃焼、天然又は 都市ガスの漏出（配管からの土壌・大気中への漏出）、アスファルト（舗装 中に揮発する溶剤）、ガソリンスタンド（地下貯蔵タンクや自動車ガソリンタンクへ の燃料注入時の揮発）、芝刈り（ガソリンの燃焼・揮発）、廃棄物の焼却） 殺虫剤（化学物質及び溶剤の大気への排出） 移動発生源（自動車（燃料の燃焼・揮発）、鉄道、飛行機、小型ボート、商船（以 上燃料燃焼による排出） 自然発生源（植物、土壌、及び海洋からの大気中排出化合物）
推計方法	中小事業所 ・対象規模未満：トップダウン方式（全国規模の生産統計、生産量と生産プロセス の関係を用いる） ・サービス部門：トップダウン方式（消費量に関する全国規模の推計を用いる） 交通及び輸送 < 道路交通 > 主要幹線道路：線源、その他：人口密度と関連 ・排出ガス：車種別道路種別交通量（走行台数又は燃料消費量（全国））及び 車種別燃料別年式別平均排出係数（触媒普及率加味）より推計 ・融雪剤：一定期間に使用される塩類の量より推計 ・固形廃棄物：スクラップ及びリサイクルに関する情報より推計 < 海運 > ・内航海運：排出ガス（燃料消費量と単位燃料消費量当たりの排出係数 （道路交通用エンジン）より推計） 油流出による水質汚濁（船舶数と船種に関する情報より推計）	地域関連排出源（ガソリンスタンド以外） ・メッシュあたりの人口（センサ情報、伸び率）及び単位人口当たりの排出 係数より推計 地域関連排出源（ガソリンスタンド） ・各メッシュにおけるガソリンスタンド数（電話帳）とガソリンスタンドにおける平均 排出量（燃料消費量）より推計 殺虫剤（本インベントリーに含まれず） 移動発生源（自動車） 道路種別の各メッシュの走行台キロとキロ当たりの道路種別車種別燃料 別年式別排出量により推計 移動発生源（鉄道、飛行機、小型ボート、商船） 燃料組成・消費量と排出係数等により推計 自然発生源 地域の日照時間、温度を考慮して植生分布、土地利用等から推計

事 項	オ ラ ン ダ	オーストラリア（パイロット事業）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外航海運：単位燃料消費量当たりの排出係数（ロイズ登録簿）</li> <li>・レクリエーション用船舶：燃料消費量と標準的排出係数(文献)より大気排出推計</li> <li>&lt; 鉄道 &gt;</li> <li>・ディーゼル車：交通量と排出係数（文献）より大気排出推計</li> <li>・電車：架線の磨耗による銅の排出推計（設備更新計画の磨耗損失）</li> <li>&lt; 航空 &gt;</li> <li>・空港：機種毎の離着陸サイクル(LTO)の回数及び排出係数(文献)より大気排出推計</li> <li>・飛行中：燃料消費量と排出係数(文献)より大気排出推計</li> <li>農業</li> <li>&lt; 農業 &gt; 以下の推計方式には一長一短がある。</li> <li>・トップダウン方式(生産・販売・輸出入に関する統計情報を用いて推計)</li> <li>・ボトムアップ方式(農業の用途と地域の専門家の判断により推計)</li> <li>&lt; 過剰堆肥 &gt;</li> <li>・動物の種類・数、堆肥取扱方法により推計</li> <li>&lt; 温室暖房による燃焼排出 &gt;</li> <li>・燃料消費量(エネルギー-統計、栽培種別消費量)と排出係数(文献)より推計</li> <li>&lt; トラクター及び刈り取り機の使用 &gt; ほとんど推計せず</li> <li>・燃料消費量(専門家判断)と排出係数(道路交通)より推計</li> <li>&lt; 廃棄物の焼却 &gt; ほとんど推計せず</li> <li>消費者及び製品使用</li> <li>&lt; 燃焼排出 &gt;</li> <li>・住民1人当たりの排出係数(エネルギー-統計、燃料関連排出係数(文献))と場所毎の住民数により推計</li> <li>&lt; 溶剤等からの排出 &gt;</li> <li>・住民1人当たりの排出係数(製品組成)と場所毎の住民数により推計</li> <li>&lt; 水への排出 &gt;</li> <li>・住民1人当たりの排出係数と輸送・処理方法を考慮して推計</li> <li>自然発生源</li> <li>・火山・沼地：排出係数(文献)により推計</li> <li>・土壌・植物：気候条件、土壌タイプ等の文献により推計</li> <li>他の発生源（副次的発生源）</li> <li>・開発したモデルにより推計</li> </ul>	
体制等	C E I（集計排出目録制度）において、統計データ及び排出係数等により推計。	行政機関、業界、企業、パイロット調査地域のサンプル調査（家庭）により情報収集。